

東京栄養サミット 2020 に向けた対応について

1 東京栄養サミット 2020 開催の経緯及び予定される議論

- 2012 年のロンドンオリンピックの最終日に英国キャメロン首相（当時）が主催した「飢餓サミット」を機に、翌 2013 年に「栄養サミット」がロンドンで初開催。
- この流れは 2016 年のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに引き継がれ、2017 年 12 月には安倍内閣総理大臣が 2020 年に東京での開催を表明。
- これまでの栄養サミットの議論は飢餓と低栄養が中心であったが、2020 年の東京開催では、「栄養不良の二重負荷」^(※1) 等も対象とした上で、これらの解決に向け、持続可能な開発目標 (SDGs) の推進にも資する議論^(※2) を予定。

※1 低栄養と過栄養が個人内・世帯内・集団内で同時に見られる、一生涯の中で低栄養と過栄養の時期がそれぞれ存在する、など、低栄養と過栄養の双方が存在する状態のこと。

※2 主なテーマ

- ① 健康：栄養のユニバーサル・ヘルス・カバレッジへ (UHC) の統合
- ② 食：健康的で持続可能なフードシステムの構築
- ③ 強靱性：脆弱な状況下における栄養不良対策
- ④ 説明責任：データに基づくモニタリング
- ⑤ 財政：栄養改善のための財源確保

2 日程（予定）

- 日本政府として、2020 年 12 月に以下を開催予定。
 - (1) ハイレベルセッション（首脳級・閣僚級）
 - ・ 国、国際機関等のハイレベルが栄養課題の解決に向けたコミットメントを表明し、最終的に成果文書を採択予定。外務省が取りまとめ。
 - (2) テクニカルセッション（閣僚級・次官級）
 - ・ 様々な栄養課題の解決に向けて技術的・専門的議論を行う（日本の栄養政策もアピール）。厚生労働省が中心となり、開催。

3 当省として必要な対応

- 栄養課題の整理・共有、今後の栄養政策の方向性の検討
- 本サミットの成果文書に盛り込む、国内外の栄養課題の解決に向けたコミットメント（誓約）の検討^(※3)

※3 主な検討事項（例）

- ・ 我が国による国際貢献（栄養政策の立案・展開等の技術支援等）及び国内政策の充実・加速化
- ・ 当省に関係するステークホルダー（日本栄養士会等）のコミットメントに向けた協力依頼